

2025年1月24日

**文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択
～国内 25 大学のひとつに選ばれました～**

国立大学法人九州工業大学（以下、九州工業大学）は、文部科学省の令和 6 年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されました。本事業は、地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学に対し、その強みや特色のある研究力を核とした経営戦略の下、国内外の他大学等との連携を図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速により研究力強化を図る環境整備を支援するものです。今年度は 65 件（うち、国立 34 件、公立 8 件、私立 23 件）の申請があり、13 大学（国立 10 大学、公立 1 大学、私立 2 大学）が採択*されました。

*…令和 6 年度は 13 大学、令和 5 年度は 12 大学、計 25 大学が採択

■九州工業大学の申請概要

九州工業大学は 10 年後のビジョンとして、学術界から創出される革新的な技術の社会実装を実現するイノベーション創出大学モデルを構築することを掲げています。このビジョンの実現に向けて、ディープテックシーズを社会実装可能な技術に昇華させる仕組み・体制を整備し、国内外に開放することで、スタートアップ創出や技術移転等を通して学術界から産業界に研究成果を橋渡しすることが可能な世界的な社会実装拠点を目指します。本事業を活用し、経営機能強化、基盤的な研究力強化、社会実装推進体制・環境の整備、社会実装を担う博士人材などの育成を進め、イノベーション創出大学としての好循環モデルの強化を一層促進してまいります。（概要図、推進体制は別紙のとおり）

■連携大学・参画機関（順不同）

連携大学：	北九州市立大学、長崎大学
参画機関：	東京大学、東京工業大学（現 東京科学大学）、室蘭工業大学、九州大学、国立研究開発法人情報通信研究機構、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、マレーシアプトラ大学、キングモンクット大学 北バンコク校、台湾科学技術大学、ニューヨーク市立大学、サピエンツア大学 ロレーヌ大学

■事業期間：5 年間 令和 7 年度～（予定）

■先行して戸畑キャンパスに拠点施設「九工大未来テラス」を整備中

令和 5 年 4 月に採択を受けた文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」において、本学内に拠点施設である「九工大未来テラス」の整備を進めています。

（令和 7 年度オープン予定）

■参考

- ・「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の令和 6 年度採択大学が決定しました

文部科学省 web サイト https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2023/mext_00014.html

- ・「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）採択大学」

日本学術振興会 web サイト <https://www.jsps.go.jp/j-chukaku/saitakudaigaku.html>

【報道に関するお問い合わせ】

国立大学法人九州工業大学経営戦略室

電話：093-884-3007 Mail：pr-kouhou@jimu.kyutech.ac.jp

【事業内容に関するお問い合わせ】

国立大学法人九州工業大学イノベーション本部

研究企画・社会連携部 研究企画課

電話：093-884-3092 Mail：ken-kenkyu@jimu.kyutech.ac.jp

ビジョン 九州工業大学をハブに、学术界から創出される革新的な技術の社会実装を実現するイノベーション創出大学モデルを確立する。このために学术界のディープテックシーズを社会実装可能な技術に昇華させるための「ギャップ領域で必要な実務を担う仕組み」を整備し、国内外に開放することで起業や技術移転という形で学术界から産業界にシームレスに研究成果を接続する社会実装バリューチェーンを形成する。

- 学术界の課題**

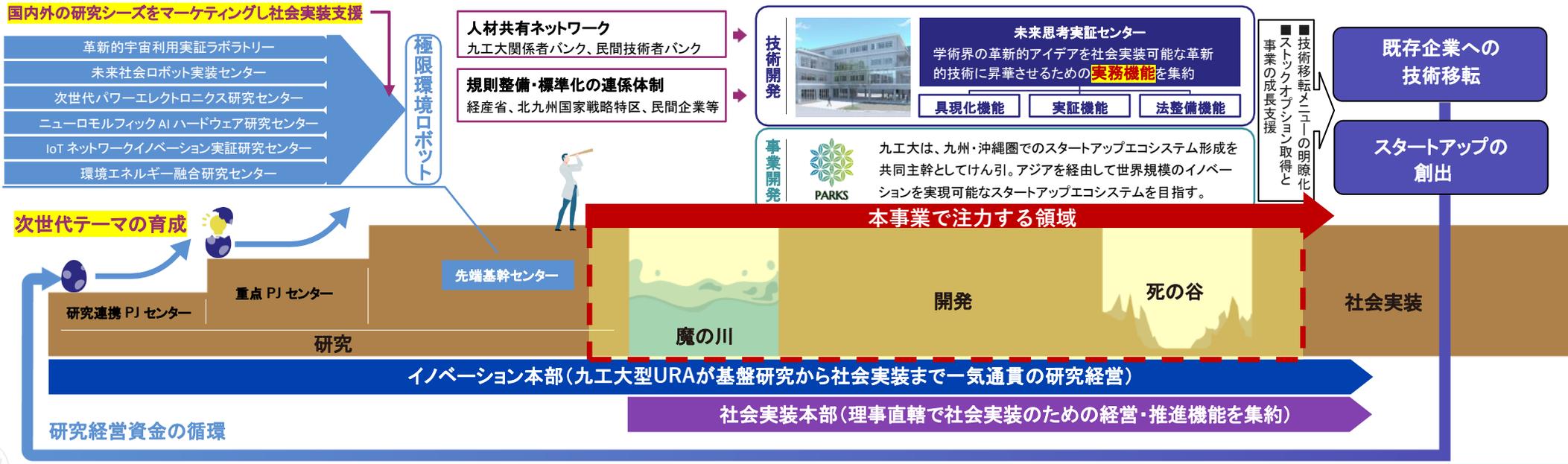
 - ディープテックの社会実装を担う技術開発人材が組織内に不足
 - ディープテックを社会実装させるための社会科学とテクノロジーの融合人材が不足
 - ホワイトリスト志向(規則に書かれていないとできない)の運営志向のため迅速・柔軟な研究経営が困難

九工大が担うべき理由

 - 建学から一貫して「モノづくり」「ひとづくり」にコミット
 - 7年連続世界一の宇宙技術、世界大会6度優勝のロボット技術等
 - 研究経営のできる九工大大型URAの育成・活躍
 - 技術職員が充実・国内 Top10 常連の産学連携力
 - PARKSの共同主幹機関として九州・沖縄圏のスタートアップエコシステムをけん引
 - 30代を副理事に登用するなど迅速で柔軟な組織経営が産業界から評価

九工大の課題

 - 研究者が社会実装活動に従事することで基盤研究への従事時間が減少
 - 知的財産権の経済価値化に課題有
 - 社会実装フェーズの支援体制不足により研究フェーズ止まりの活動が散見
 - プログラムマネジメントのできる工学系人材不足・技術職員の7割が50代
 - 社会科学とテクノロジーの融合が可能なトランジションマネジメントに関する教育が不十分



研究大学としての経営改革 **第一弾として「極限環境ロボット」の社会実装拠点化** **博士学生等を社会実装を担える人材として育成** **社会実装実務者を抱える未来思考実証センターの整備**

- 事務、技術、高度専門職員を統合、MBOによるスキル・責任に応じた報酬体系に整理し、多様な活躍を実現
- 研究経営のできる九工大大型URAをクローポで措置するなど連携機関の垣根を超えた研究経営の実現
- 社会連携本部を設置し、これまで複数の部門に分かれて管理されていた社会実装支援機能を集約。社会実装の実務者を好待遇で雇用可能な人事制度を整備

自立自走可能なPJ創出のための3ステップ

Step1: プロジェクト組成

Step2: 学内特区化
第一弾として、マイクロ化総合技術センターを認定

Step3: SPC化
第一弾として、AI人材育成を目的としたKyutech ARISEを設立

	既存の取組	本事業で推進する特徴的な取組み
環境実装強化	<ul style="list-style-type: none"> 7年連続運用数世界一位の超小型人工衛星の開発力と世界的な評価環境 サービスロボット世界大会6度優勝、水中探査ロボット国際コンペティションで準優勝などのロボット開発力 	<ul style="list-style-type: none"> 2024に九工大とJAXAで共同設置したCubeSatサロンで、大学や企業に対して超小型衛星の開発・運用等のコンサルティングを実施し、国際的な宇宙ミッションへの参画数を増やす。 九工大、長崎大、東京大で連携し、実海域技術開発研究推進センター(仮)を設立し、海洋分野の地球規模の課題を解決。 九工大、北九大、北九州市と共同で、研究基盤協議会と連携し機関の垣根を超えたオープンファシリティーセンター構想を推進。
人材育成・獲得	<ul style="list-style-type: none"> SPRINGプログラム等により65名の工学博士学生を育成。PG卒業生が社会実装人材として九工大に着任 アントレ教育推進室を設置し、アントレ教育を学部で必修科目化。 	<ul style="list-style-type: none"> 九工大、北九大で連携し、社会科学とテクノロジーの融合研究と教育を推進するトランスディシプリナリー教育研究センター(仮)を設置。 技術系職員の高度化を推進するために、東京工業大学と連携した育成プログラムを推進。 北九大、長崎大、PARKSとの連携や起業支援プログラムへの参加によりマネジメントのできる工学博士人材(CTO)の育成を推進。

- 「宇宙・ロボット」「通信」の分野で組織的な連携を行う6つの機関(アジア3つ、欧米3つ)を重点連携機関として世界拠点化を推進。この6つの大学にイノベーションコーディネータを派遣するとともに社会実装向けジョイントプログラムを強化。
- 3つの国内VCとの包括連携体制を起点にファイナンス体制を強化。
- アメリカやシンガポール等の世界的インキュベーションPGとの連携強化。
- 実証環境との組織連携による社会実装活動の推進。
- 技術と事業の開発人材を学内にプールするとともに、民間技術者バンクとの連携を強化し、社会実装を加速化。
- リカレント・リスキリング教育の積極推進による地域技術人材のディープテック領域での活躍促進。
- 共同研究講座のスキームを活用したクローポ等による産業界からの社会実装人材の集積。
- 九工大関係者データベース等を整備・活用し、九工大への思いの強い多様な人材にアクセス。

